

日光道中 粕壁宿



① 春日部情報発信館 「ぶらっとかすかべ」

春日部市の観光・イベント情報などはこちらで入手できます。粕壁宿の街あるきはここからスタート。
【開館時間】9:00～16:30
【休館日】月曜(月曜が祝日の場合は翌日以降の平日)、年末年始

② 郷土資料館

教育センター1階にあり、江戸時代の粕壁宿の200分の1の模型や、縄文時代の復元住居などを展示してあります。
【開館時間】9:00～16:45
【休館日】月曜(祝日と重なったときは翌日も)、祝日、年末年始

③ 八坂神社 (い)

天王様の通称で親しまれ、六斎市が立ったところから宿場の市神様として信仰されました。毎年7月に行われる「春日部夏まつり」は、もともとは八坂神社の祭礼です。

④ 東八幡神社

八木崎の八幡神社は「上の八幡様」、この神社は「下の八幡様」と呼ばれています。ご神木の大げやきは樹齢600年以上。三ノ宮卯之助が持ち上げたという100貫目のカ石があります。

⑤ 国立薬草園跡

日本初の国立薬用植物栽培試験場がありました。大正11年に開設され、昭和55年につくば市に移転しました。現在は、文化会館と図書館隣に、当時を伝えるものとしてミニ薬草園がつくられています。

⑥ 礎神社のイヌクスいかり

推定樹齢600年。この地では珍しい南方系の樹木で、県指定の天然記念物です。江戸時代には、粕壁宿の船着場の目印になっていました。神社は、粕壁宿の名主であった多田家の屋敷稲荷です。

⑦ 道しるべ

東屋田村本店前の道しるべ。天保5年(1834)のもので、もとは高札場の三又路にありました。日光・岩槻・江戸の三方面の方角が刻まれています。

⑧ 商家の蔵 (ほミセと蔵)

明治初期頃からの古い蔵です。外観見学のみ可能です。(田村荒物店)

⑨ 古利根公園橋

県鳥シラコバトをデザインした風見鶏に、麦わら帽子をイメージしたアーチ。光と風をテーマにした全長79mの橋上公園です。市制30周年記念事業として昭和59年に建設されました。

⑩ 粕壁宿の案内板 (へ問屋場跡)

案内板付近は、問屋場(といやば。宿場の業務を行うところ)跡ともいわれています。

⑪ 新町橋 (ち)

旧日光道中に架かっている橋で、江戸時代には大橋と呼ばれた板橋でした。

⑫ 上喜蔵河岸跡 (ち)

船着場跡です。江戸時代、河川は物資の輸送路として重要でした。古利根川沿いの粕壁宿も商家や問屋が多くあったため、周辺の物資の集積地となっていました。

⑬ 最勝院

広い境内を利用して、相撲の巡業やサーカス・芝居・武道大会などの興行が行われていました。本堂西側には、春日部重行公の墓と伝えられている塚があります。

⑭ 山中観音堂

江戸時代の俳人、増田眠牛の菩提を弔うために建立されたお堂です。東口開発により、現在地に移転しました。

⑮ 神明神社

宿場の守り神として信仰されていました。12月14日の新穀感謝祭(酉の市)には露天が立ち並び、夜遅くまでにぎわいます。

一 加藤楸邨 旧居跡

加藤楸邨は日本の現代俳句を代表する俳人の一人。旧制粕壁中学校(現在の春日部高等学校)での教師時代、俳句と出会います。

二 小浏山観音院 仁王門

「ものいへは 昏寒し 秋の風」の松尾芭蕉句碑があります。元禄年間(1688～1704)に建てられた仁王門は、市指定有形文化財です。

三 小浏一里塚と道しるべ

小浏の一里塚は、日本橋から9番目です。道しるべは、日光道中から関宿往還との分岐点にあり、右側の道標には、正面に「右せきやど道、左おうしゅう道」と記されています。また、左側の庚申塔には正面に「青面金剛」左面に「左日光道」の文字が刻まれています。

四 見川喜蔵墓及び見川家五輪塔

見川喜蔵は、江戸時代中ごろ、飢えに苦しむ人々に粥を施し、喜蔵堤と呼ばれる堤防を築き水災を防いだ春日部の偉人です。成就院にその功績を讃えた墓があります。墓石の文字は、幕末の三筆の一人で、将棋の駒の文字で有名な巻菱湖の筆跡です。市指定有形文化財。

い 八坂神社 (3)

ろ 東陽寺・源徳寺

『曾良(そら)旅日記』の一文が刻まれた碑があります。元禄2年(1689)『奥の細道』紀行で、松尾芭蕉は粕壁宿に一泊したとされています。泊った場所はここ東陽寺、小浏山観音院のほか、諸説あります。

は 脇本陣跡

中宿(仲町)の蓮沼屋庄兵衛が勤めましたが、天保元年(1830)に現在地で旅館屋を営んでいた高砂屋竹内家が勤め、嘉永2年(1849)から幕末まで本陣になりました。

に 本陣跡

古くは関根次郎兵衛家が勤め、その後、現在地の関根助右衛門家、見川家、小沢家、竹内家の順に4度移転しました。日光山法会など、公用の通行者が多い時には、最勝院・成就院が宿泊施設として利用されることもありました。

ほ ミセと蔵 (8 商家の蔵)

へ 問屋場跡 (10 粕壁宿の案内板)

と 高札場跡・浜島家住宅土蔵

この交差点は、日光道中と寺町通が分岐する三叉路で、幕府からの触書(法令等)を掲示する高札場が設置されました。通りの向かいにある黒壁の土蔵は、戦前まで佐渡屋の屋号で米穀商を営んでいた、浜島家の土蔵(国登録有形文化財)です。

ち 新町橋・上喜蔵河岸跡 (11 12)

日光道中は、江戸時代に整備された五街道のひとつで、日光街道とも呼ばれています。江戸日本橋を起点とし日光坊中・日光東照宮まで連し、総延長は36里3町2間(約142km)及びびます。日光道中は、日本橋から宇都宮宿まで奥州道中との共用区間であったため、東北方面の大名の参勤交代や、日光社参(徳川将軍の日光参拜)の道として用いられたほか、庶民にも多く利用されていました。日光道中には21の宿場が設けられ、人馬の継立、助郷差配等の業務を行う問屋場、大名が宿泊・休憩をした本陣、脇本陣などが置かれたほか、旅館、木賃、茶屋や商店が建ち並び町場を形成し、賑わいをみせていました。

日光道中とは



日光道中分間延絵図(粕壁宿) 東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives

発行/一般社団法人 春日部市観光協会

Tel. 048-812-5304

お問い合わせ/春日部情報発信館「ぶらっとかすかべ」

Tel. 048-752-9090

〒344-0061 埼玉県春日部市粕壁1-3-4 <http://www.visit-kasukabe.jp>

